

## 令和8年度 第1回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和8年5月14日(木) 18:30~20:00
- 2 会 場 とかちプラザ 3階 会議室 304
- 3 出席委員 卯月 道彦、伊東 健太郎、斉藤 準、鳴海 亮、津田 祥平、  
今野 敏幸、岸田 智子、野村 勇、青田 善弘、久保田 博己、  
三浦 真希子、深津 真悠、下浦 秀樹、佐藤 康則  
(以上14名、敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化室長 天池 文彦、生涯学習文化  
課長 米通 朋樹、児童会館長 佐藤 智紀、百年記念館長 奥村 哲秋、  
動物園長 渡邊 誠克、スポーツ課長 鷲北 博敬、生涯学習文化課長補佐  
金須 健裕、生涯学習文化課生涯学習係主任補 濱 しおり、生涯学習文化  
課生涯学習係係員 佐々木 美希  
(以上10名)
- 5 講 師 一般社団法人 NORTH Re DESIGN  
代表理事 福島 智大 氏
- 6 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 村木 章純
  - (3) 議事
    - ① 講話「若者と地域が関わり続けられる条件を地域の中にどうつくるか？」
    - ② 生涯学習施設の新たな料金設定の検討状況について
    - ③ 会議等出席報告
    - ④ その他
  - (4) 閉会
- 7 議事要旨
  - (1) 講話「若者と地域が関わり続けられる条件を地域の中にどうつくるか？」
    - ① 講話内容
      - ・子ども食堂「みんなで食べよう おうちごはん」では、携わる高校生たちに役割がある。レクリエーションの内容は高校生が考案しており、参加者というよりは活動の担い手として一緒に運営する形になっている。また、子ども食堂の活動が高校の文化として定着している。

- ・地域連携マイプロジェクトでは、講師となる地域の大人と学校をつなぐ役割を福島氏が果たしている。当初はボランティアとしてプロジェクトの立ち上げから関わっていたが、現在は学校から業務として委託してもらい活動している。
- ・さまざまな活動に携わる中で、活動自体は素晴らしいが、誰かの善意で成り立っていると感じることが多々あった。そういった善意依存を構造へ移すことが必要である。

## ② グループワーク

後半の時間では、「若者と地域がつながりにくくしている『見えない段差』は何か?」「段差を小さくするために、社会教育として何を設計できるか?」をテーマにグループワークを行った。

### ●各グループの発表

#### ○グループ1

- ・若い人はネットワーク上でのつながりに長けており、文字に起こすのは上手だが、思ったことを言葉にして口に出す、視覚化するのが難しいのかも。
- ・大人が一方的に教える場でなく、子どもたちが自分で考えられる場を作るのが大切ではないかと思う。
- ・褒めることが大事という話になった。また、人に褒められることと同時に、自分自身を褒めることも大事なこと。

#### ○グループ2

- ・世代間で格差やコミュニケーションの違いがあるのではないかと思う。
- ・活動の楽しさの魅力が不足しているのかも。大人も子どもも、まずは興味を持つところがスタート地点ではないかと思う。
- ・地域と若者をつなぐときに何が必要かという、ハブとなる人。ハブとなるのは誰なのかを考えないといけない。
- ・キーとなるのは情報であり、SNSもあるがアナログ的なところも必要だろうと思う。あとは意識をどのように高めていくのかも課題だろう。そういう課題を克服して、そこから「つなぐ」「続けていく」という構造ができるのではないか。

#### ○グループ3

- ・地域と関わろうとしている若者はいるのだろうけど、社会の大人がそういう場や体制を作ってあげられていない。
- ・大人が「若者が地域と関われる場所を作ろう」という意識を持たなければいけないということと、そうなったときにお金も動くのでお金の部分を考えることも必要。

- ・ただ大人たちも忙しく、多忙感というのが動きを広げられない要因ではないだろうか。そうした中でも若者と地域をつなぐコーディネーター的な立場の人を作る、発掘するというのが一つの解決になるのではないだろうか。

(2) 生涯学習施設の新たな料金設定の検討状況について  
事務局より説明。その後、質疑応答を行った。

○委員長

利用料は高くなるのか？ 低くなるのか？

○事務局

現在コスト回収率が100%に至っていない施設が大半であり、そういった施設を100%に近づけるとなると値上げの傾向にはある。

○委員長

一意見としてだが、知り合いの中でも帯広市の施設を選んで使っている人もいれば、駐車場等の利便性や利用料の面で他町村の施設を使っている人もいたりして、コスト面と利用率の割合のバランスは難しいところだと思う。市民が施設を利用しようとしても市民割があるわけでもなく…。また、予約する際に空き状況がわかりづらかったりして、業務効率を含めてなにかできないものかなと思うところ。ただ難しい部分だとは承知している。

○委員

帯広市で活動する団体への手厚い減免や、全道規模の大会への優遇措置があると助かる。私が携わる大会でも減免が利かないという点から、他町村での開催も視野に入れていたと聞いている。減免や優遇措置について、検討できるのであれば考えていただきたい。

○事務局

同じ帯広市民として思いはよくわかる。ただ、先ほどの委員長のお話にも市民割という話があったが、利用者の区分を分けるにもコストがかかることであり、現場でどう運用するのかを考える必要がある。また市民割や減免について、これは社会教育施設のみのことではなく、市全体で考えていかなければならないことだと思う。今すぐ何ができるかというのは申し上げられないが、他の部署とも情報共有をしてみたい。

(3) 会議等出席報告

研修会への出席について報告。

〈意見・質問なし〉

(4) その他

動物園から近況について報告。その後、施設に関する意見聴取を行った。

委員からはトイレなどの水回りに関することや、開園期間や開園時間、情報発信の仕方等に関する意見があった。

以上